

低温、低コストでこれまでにない新しいアスベスト溶融・無害化の実現！

～ オンサイト式(移動式)溶融・無害化処理システムの開発 ～

背景・研究開発状況

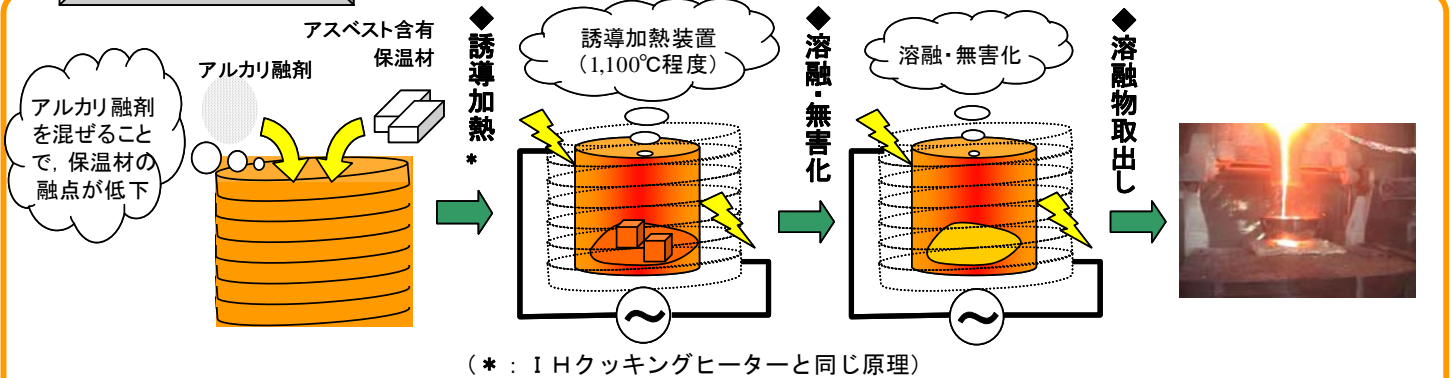
アスベストを含む建材等が解体・更新に伴い、今後、大量に排出されることから、既存の溶融処理施設よりも一層、安全かつ効率的にアスベストを無害化できる技術の開発が急務となっています。

平成18年度、NEDOより「アスベスト緊急削減実用化基盤技術開発」事業を受託し、東北大学、富士電機サーモシステムズ(株)と共に開発に取り組んでいます。これまでの試験の結果、火力発電所等で排出されるアスベスト含有保温材について、既存技術の1,500℃より低温の1,100℃程度で安全に溶融・無害化できる技術を確立しました。



技術開発・環境保全センター
環境リユージョンチーム 山田 真一さん

研究開発概要



技術の特徴

- ・ エネルギー投入量の抑制：従来よりも低温での溶融・無害化処理が可能
- ・ 環境リスクの低減：オンサイト処理により排出事業所内で処理が完結できるため、運搬時や埋め立てに伴う将来の環境リスクが低減
- ・ 溶融物の有効利用：アスベストを溶融・無害化しガラス化した溶融物は、道路路盤材などに有効利用することが可能

今後の予定

今年度中に、実用規模の装置を使った実証試験を実施します。また、今後は、安全性、処理効率アップのための検討およびオンサイト式処理車の詳細設計に取り組んでいきます。

オンサイト式(移動式)処理車の概念図

